

## 笠原沼の造成及び新田開発と用悪水

宮代町教育委員会 河井伸一

はじめに

埼玉県東部地区では、江戸時代初期に関東郡代伊奈氏により関東流という手法で溜沼を造成し、その下流域の新田開発を行ったといわれている。ここでは、その溜沼の一つである南埼玉郡宮代町に所在した笠原沼を例に、笠原沼造成及び開発と用悪水について述べてみたいと思う。

### (1) 近世初頭以前の笠原沼湿地

近世初頭以前の笠原沼は、古利根川の自然堤防の後背湿地であったと推定される。笠原沼湿地と東側で隣接する小沼については、元和 5 年 (1619) の百間村検地帳の書き抜きで享保 14 年 (1729) に写した「百間中島村水帳写百姓持高改帳」(百間中島村岩崎家文書 1952) によると田地として把握されている。これらのことから、元和 5 年にはすでに笠原沼と小沼は分離されていたことが分かる。この小沼の新田開発により笠原沼は低湿地としてどの村にも属さない場所であった。万治 2 年 (1659) 頃の「溜沼争論絵図」(百間本村折原家文書 3511) には小沼耕地は堤により四方を囲まれていることが分かるため、小沼の開発は四方を堤で囲み、落堀を開削し姫宮堀に排水したことで新田開発を行ったと推定される。

### (2) 笠原沼の造成とその年代

従来、笠原沼は他の東部低地の溜沼と同様に、伊奈備前守忠次により造成されたと推定されていたが、最近発見された享保 7 年と推定される「地先出入訴状」(須賀新田戸田家文書 84) で大河内金兵衛久綱により造成されたことが確認された。これによると「大河内金兵衛様御奉行として上郷より悪水落堀笠原沼に御堀込被遊候、其上沼下姫宮堀ニ常堰を築、上郷落水を溜置下郷之用水ニ引申候」とあり、「地方の奉行」である大河内金兵衛により笠原沼下手に横手堤(現在の百間新道の延長)を築き、爪田谷落堀(現在の姫宮落堀上流)を開削し笠原沼に排水したことで笠原沼の水量を上げ、姫宮堀(現在の姫宮落堀下流)に堰(道仏堰)を造り百間村などの用水として利用したことが分かる。なお、「溜沼争論絵図」には上手にも堤があることが確認できる。

笠原沼造成の年代は、大河内金兵衛が寛永 15 年 (1638) まで「地方の奉行」であるため、それ以前であることが分かる。次に「溜沼争論絵図」を見てみる。この絵図によると笠原沼北側の字五丁付近の田地に水がかぶっている事が分かる。この場所については、寛永 13 年 (1639) の「須賀村年貢割付状」(須賀新田戸田家文書 107) には「壱町八反壱畝歩毎年荒ニ付」と、慶安元年 (1648) の年貢割付状(須賀新田戸田家文書 48) にも「一町九反八畝二七歩毎年どぶニ引」とあり永荒地として把握されている。これと関係があるものとし

て正徳5年(1715)の「笠原沼菰草植付願」(須賀新田戸田家文書243)がある。これには「笠原沼内の内、一町九反八畝二七歩の土地について笠原沼の造成により永荒地となった」とあり、元和5年に田地として把握されていた場所(字五丁の笠原沼北側の田地)が寛永13年に永荒地となっていることから、笠原沼は、元和5年から寛永13年までの間に大河内金兵衛により造成されたことが確認できる。

このような中、平成14年度に須賀村渡辺家文書が発見された。文書群中の須賀村年貢割付状に、寛永2年(1625)に「堀敷」になった区域があり、この用水堀が笠原沼造成と密接な関係のある道仏堰に繋がる用水路と推定されるため、寛永2年に大河内金兵衛により用水堀の開削や道仏堰の構築が行われ、笠原沼が造成されたと推定される。

### (3) 笠原沼をめぐる水争い

溜沼開発前の水争いは用悪水の分離が行われていなかったため起こるものである。ここでは、先ず江戸時代前期から中期に笠原沼周辺で確認できる用悪水堀を見ていきたい。

笠原沼へ流れ込む悪水堀としては、金兵衛堀(爪田谷落堀)や野牛高岩落堀が、笠原沼から流れ出る悪水堀としては姫宮堀(笠原沼古落堀)があった。この他、「溜沼争論絵図」には、笠原沼南側から流れ出る堀が描かれている。堤防で囲まれた小沼耕地から流れ出る堀もあった。また、古利根川・備前堀・備中堀(隼人堀)・金兵衛堀(備前前堀)も確認できる。用水堀としては、備前堀の堰から須賀村を經由し道仏堰で加水され、柚木・松ノ木島(宮代町字宮東)に至る用水が確認できる。また、「騎西領落堀堰論裁許状」(百間本村折原家文書1)には、金兵衛堀(爪田谷落堀)の末に築かれた堰から繋がり笠原沼の南側を流れる用水が確認できる。

百間村などの用水源として造成された笠原沼は、騎西領(白岡町周辺)の悪水を笠原沼に溜め、笠原沼から古利根川に繋がる姫宮堀に道仏堰を設けて水位を上げ、悪水堀より高い位置にある用水を經由し田地に水を供給する機能を要した。そのため、道仏堰に堰をすると笠原沼の水位が上がるため、周囲の村々の田地に水がかぶり、笠原沼周囲の須賀村などの村と笠原沼から用水を引いている百間村などの村で水争いが絶えなかった。

笠原沼をめぐる水争いで確認できる最も古いものは、万治2年頃の百間村と笠原沼近所の村との水争いである(「溜沼争論絵図」)。これは、姫宮堀に構築された2カ所の堰により、笠原沼北縁の字五丁付近の田地が水損になったため起こったと推定される。字五丁付近の領主としては須賀村の旗本永井氏・旗本池田氏・岩槻藩阿倍氏、東条原村の旗本水野氏が確認できることから、近所の村とは、須賀村と東条原村を指すと推定される。2カ所の堰の内、1カ所は道仏堰で現在の県道蓮田杉戸線の東側に位置する。もう一カ所は笠原沼代用水開削後の中島堰の位置にある堰である。その後、寛文12年(1672)には百間村と騎西領とで水争いが起こる(「騎西領与百間村水論裁許状」百間本村折原家文書48)。これは、騎西領落堀(爪田谷落堀)の末に百間村が堰を造ったことに由来する。元禄6年(1693)には西原村(百間村)・西村(百間中村)・東村(百間東村)・道仏村(百間中島村)と久米原村

(東条原村)・須賀村・爪田谷村との争いが起こった(「騎西領堰論裁許状」)。これは、笠原沼の下手にある姫宮堀に恒常的な堰(道仏堰)を造ったことに由来し、万治2年頃の水論とまったく同じ状況下での水争いと考えられる。裁許の結果は、道仏堰から百間領の村々が用水を引くことは認められたが、堰の大きさや沼が満水の際は堰を取り払うことなども取り決められた。さらに、正徳3年(1713)、正徳5年には、野牛村の領主新井白石により野牛高岩落堀が掘られたことに起因する騒動が起こる。高岩落堀は、すでに元禄6年に確認できるが、野牛村の悪水を高岩落堀に接続したことにより、笠原沼の水量が大幅に増えたため須賀村は姫宮堀の浚渫や笠原沼北側の字五丁の田地について真菰原に戻して欲しいと要望している。享保7年には道仏村・東村・西村・百間村と久米原村・爪田谷村との間で道仏堰をめぐる争いが起こる。また、道仏村と蓮谷村との真菰刈り取りの争いも起こる(杉戸宿海老家文書1)。これらは、いずれも道仏堰を恒常的な堰としたい百間村や道仏村・西村・東村と臨時的な堰としたい久米原村や須賀村・蓮谷村・爪田谷村との思惑の相違から起こったものと考えられる。須賀村では元々、「永荒地」と認められていた場所に元禄元年頃から、真菰を植え出し、さらに、宝永5年(1708)には開発を領主(旗本永井氏)に命じられている。享保7年にも笠原沼北側の地先の開発に係り旗本永井氏の須賀村と天領及び旗本池田氏の須賀村との争いが起こる(須賀新田戸田家文書18・100)。蓮谷村では元禄3年の検地で、笠原沼北側の流田が認められている。東条原村でも元禄3年の検地帳(東条原村岡安家文書108)に流田が認められていることから、笠原沼周囲で盛んに開発が行われていたことが分かる。享保7年の幕府による裁許では宝永5年の見取場や当年植え出した分は勿論、元禄3年の「流田検地」以外の金兵衛堀以南への笠原沼へ植え出した分はすべて取り除くようにと決められた。

このように、幕府の意向と反する形で、笠原沼の北側では、村方や領主が頻繁に開発を行ったため、度々、沼水の増量により、稲が不作となり、大水の際に、下流域の百間村などの村と水争いになったと推定される。

#### (4) 笠原沼新田の開発と笠原沼代用水

井沢弥惣兵衛為永は、幕府の勘定方として、関東郡代伊奈氏による関東流と呼ばれた溜沼方式の用排水体系を、用水と排水を完全分離する紀州流と呼ばれる方式に変え米の増産を計った。

溜沼である笠原沼を開発するためには、笠原沼の水を用水源としている百間村などの村に代替の用水を引くことが条件であった。これには享保12年8月からの見沼溜井(さいたま市)開発に伴う見沼代用水の開削が重要であったと推定される。

享保13年3月の「笠原沼新田割境絵図」(須賀新田戸田家文書143)に笠原沼新田の計画が示されている。これによると、笠原沼周囲の村8カ村と須賀村定八、下野田村藤助により開発されたことが分かる。周囲の村が笠原沼新田の村請となったのは、それ以前の地先の開発があったためと推定される。なお、下野田村藤助は、黒沼新田の開発者としても確

認できることから有力な地主の一人であったと推定される。

笠原沼を開発するため、百間村などの用水源の代替として笠原沼代用水が開削された。享保 13 年に見沼代用水からの引入口として中島塚樋(菖蒲町)を造り堀幅 2 間半で通水し、さらに、除堀分水(久喜市)で堀幅七尺の黒沼代用水を分岐させ、堀幅 2 間となった。庄兵衛堀との交差地点では原地内伏越を、さらに、野牛村で押掛戸や高岩村で水門を、西条原村字鎌塚谷で須賀村への分水として塚樋を設け、その後、用水を南北に分け、北側の笠原北側用水(中須用水)は須賀村や蓮谷村・中島村、百間東村の松之木島・柚木などの耕地を灌漑した。南側の笠原南側用水(百間用水)は、野牛高岩落堀との交差地点で上野田伏越を、爪田谷落堀との交差地点では上野田(爪田谷)掛渡井を構築し、さらに、百間村地内の第六天分水で笠原北方用水(内郷用水)を分派し、百間東村や百間中村・百間村の耕地を灌漑した。享保 14 年 12 月の「御普請潰地改帳」(須賀新田戸田家文書 66)によると河原井沼落(爪田谷落堀)と野牛堀(野牛高岩落堀)の開削による潰地が報告されていることから、笠原沼に排水されていた落堀を姫宮堀まで付廻していることが確認できる。笠原沼代用水も遅くともこの頃までには工事が終了していたことを伺わせる。

笠原沼代用水の開削は、すべて新たな用水堀を開削したわけではない。以前からあった用水堀を利用し、必要な箇所新たな新堀を開削した。笠原沼代用水の上流については不明であるが、西条原分水以南は詳細に分かる。笠原沼代用水は西条原分水で南北に分かれ、笠原北側用水(中須用水)は、ほとんど以前の用水筋(備前堀の堰から須賀村・道仏堰を経由し字松之木島・字柚木に至る用水)を利用した。笠原南側用水(百間用水)は西条原分水から、爪田谷落堀の末までは新たに開削し、それ以东は以前の用水筋(金兵衛堀末の堰から笠原沼の南側を流れる用水)を利用した。第六天分水では北方と南方に用水筋が分かれるが、笠原北方用水(内郷用水)は以前の用水筋を利用し笠原南方用水(百間用水)は新たに開削した。

なお、笠原沼代用水は笠原沼新田開発以後、46 カ村で組織された黒沼笠原沼代用水組合に属し、その内、17 カ村で組織された笠原沼代用水組合で管理された。組合内は笠原上組・笠原中組・笠原下組に分かれており、さらに、分水や掛渡井・伏越・堰枠等の管理はその施設を使用する村々で普請組合が組織されていた。

笠原沼の開発にはその下流域の百間村などの用水源を確保すると共に、笠原沼に流れ込む悪水を迂回させる必要があった。享保九年には、南側の逆井新田が開発され、その悪水を笠原沼に流し込んだ。享保 13 年の笠原沼新田の開発が始まるとまず沼の南側で水除堤を造り、沼に流れ込んでいた逆井新田落堀を沼下へ導いた。一方、沼の北側でも水除堤を造り、笠原沼へ流れ込んでいた爪田谷落堀や野牛高岩落堀を下流の姫宮堀に繋げるため笠原付廻堀を掘り、悪水を古利根川に落とした。こうして、上流からの排水を迂回させ、さらに、沼の水を抜くため中水道を開削し、その下流に笠原沼落堀を掘り、小沼の悪水堀に繋げ姫宮堀に排水した。しかし、姫宮落堀との合流地点で水が溢れてしまったため、享保 14 年、新たに新堀を開削し古利根川に排水した(蓮谷村加藤家文書 2)。これにより、百間村

(百間西原組)、百間西村(百間中村)、百間東村、百間中島村、蓮谷村、須賀村、爪田谷村、東条原村、須賀村定八、下野田村藤助の 8 カ村と 2 名により、笠原沼の新田開発が行なわれた。さらに、窪地であったため、串歯状に堀を掘り、その土を嵩上げすることで堀上田とした。こうして、笠原沼は笠原沼新田に生まれ変わった。

おわりに

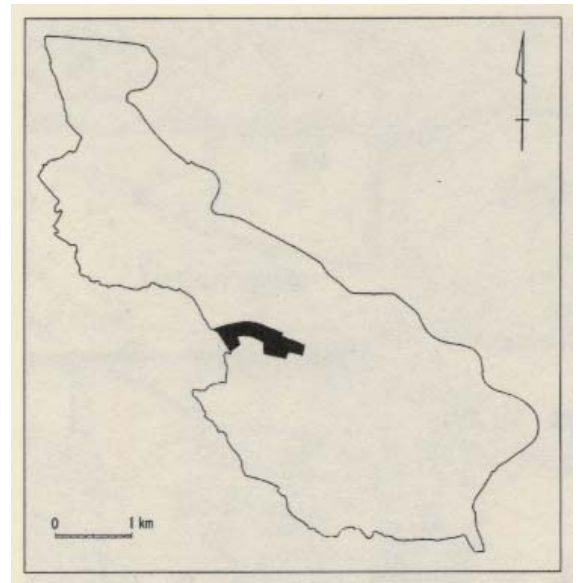
笠原沼は寛永 2 年に大河内金兵衛により関東流の手法で溜沼として造成され、下流域の田地の開発を行った。そして、享保 14 年には井沢弥惣兵衛により紀州流の手法で溜沼である笠原沼自体を新田として開発した。これは、米の増産に止まらず、笠原沼周囲の村と百間村など笠原沼の水を用水源としている村との水争いを防ぐ意味もあった。開発後の水争いは水の増量ではなく、分水堰をめぐる用水が不足する時に起こっている。このことから享保期の紀州流による新田開発は、それまでの溜沼方式から用排水分離方式への変更であり、本地域にとって用排水体系を大きく変える重要な意味合いがあったと考えられる。

#### 《参考文献》

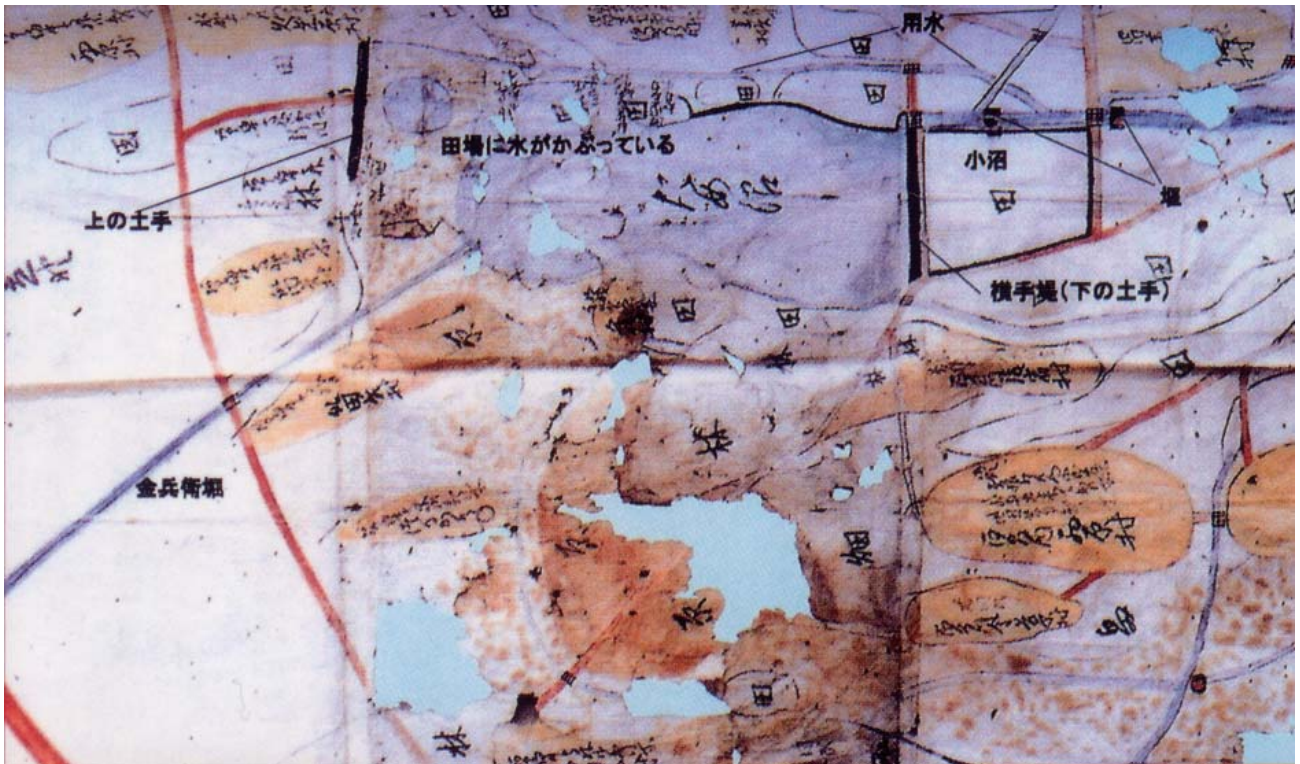
- |          |      |                              |
|----------|------|------------------------------|
| 宮代町教育委員会 | 1992 | 「戸田家文書」(『宮代町史資料第 2 集』)       |
| 宮代町教育委員会 | 1994 | 「岩崎家文書」(『宮代町史資料第 5 集』)       |
| 宮代町教育委員会 | 2000 | 「折原家文書」(『宮代町史資料第 18 集』)      |
| 宮代町教育委員会 | 2003 | 「岡安家文書」(『宮代町文化財調査報告書第 12 集』) |
| 宮代町郷土資料館 | 2006 | 『特別展笠原沼と笠原沼代用水展示解説図録』        |



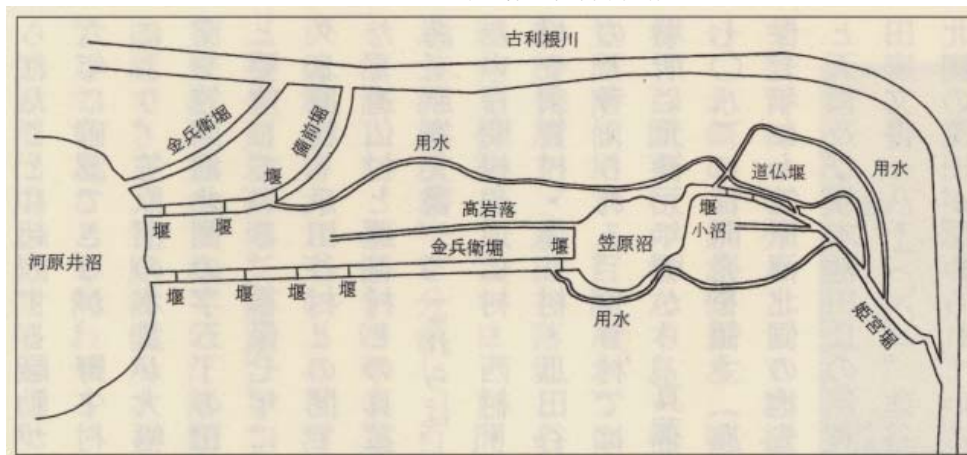
埼玉県における宮代町の位置



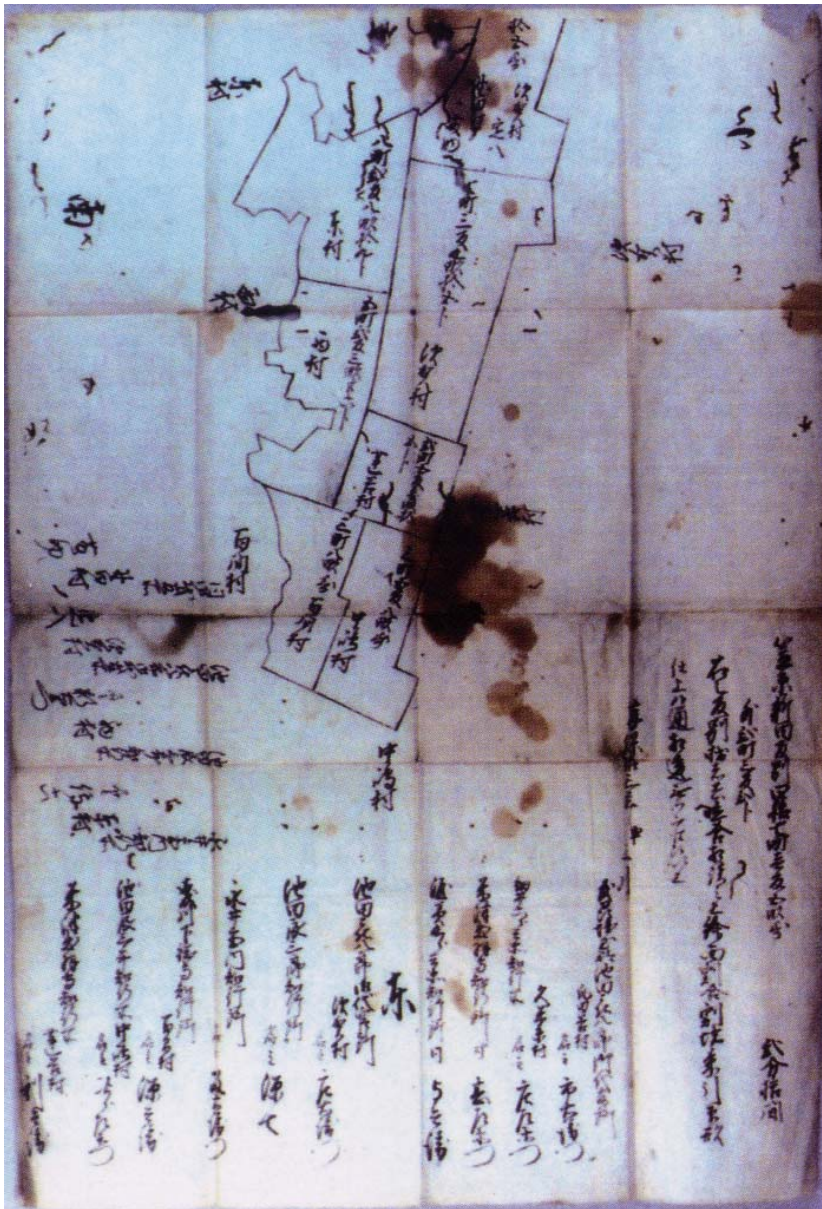
宮代町における笠原沼の位置



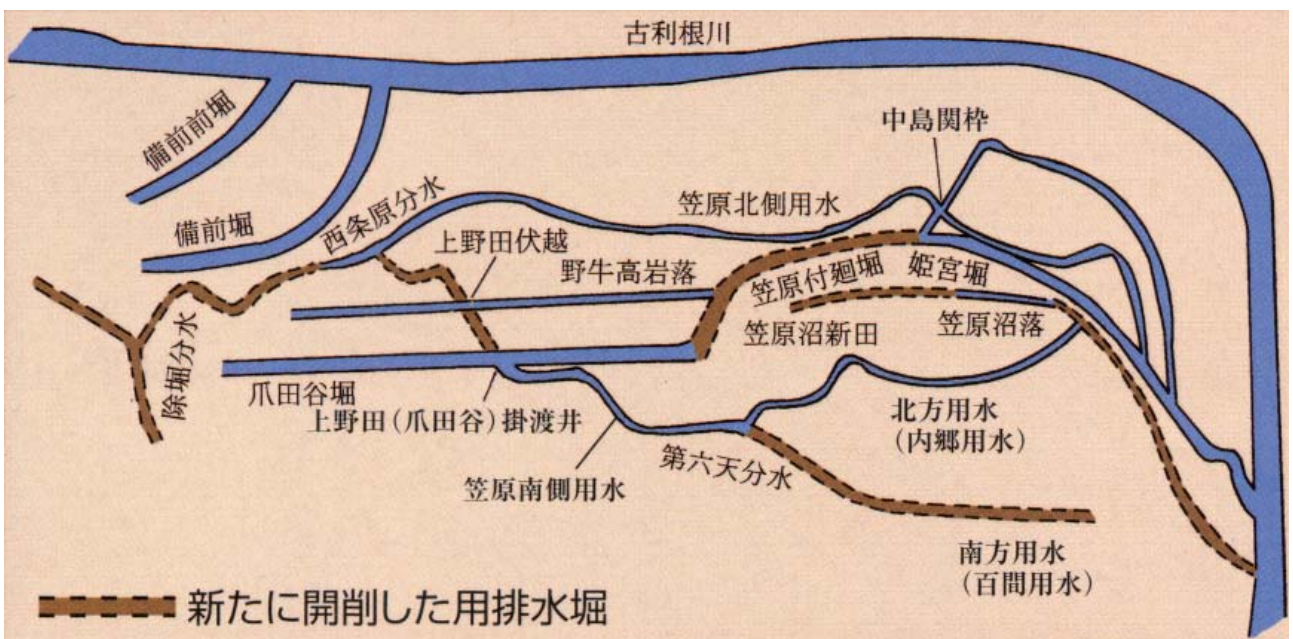
溜沼水論絵図



開発以前の笠原沼と用悪水路



笠原沼新田割境絵図



笠原沼周辺用悪水開削図



昭和 40 年代の笠原沼新田周辺